

# 觀察に就いて

— 東京市幼稚園獎學講習會の講演大要 —

倉 橋 惣 三

## 一 觀察が保育項目として新しく加へられるまで

私が定めたものでないから是を説明するといふことは有り得べからざることではありますが、斯様に考へられるといふ所を先づ初めに少し研究して見度いと思ひます。

(一) 觀察に對する教育の思潮上から——古い教育は主として言葉即ち概念によりました。概念主義の意味を少し擴げて繪を用ひることも含めます。この傾向は近世の初めまで續きました。我が國では維新頃まで殆んど此の法のみ行はれて居ました。これに對して十六世紀になつてフランシス・ベーコンが實物によつて教育すべしと唱へて立ちました。彼は教育學者ではないから細かいことは云つては居りませんが、この實物の教育が觀察のそも／＼の始めであります。故に觀察は概念の教育以外のものをねらつてゐるといへます。實物經驗を経ないと本當の知識は得られないとの主張であります。それから實物を教

育にまで取り入れる方法として教育上直観が重きをなしてまゐりました。この方法として貢献したのがペスタロッツチであります。教育を以て教授を本體とした時代には直観の創始者としてペスタロッツチを偉なりとした位でした。我國でも二十年許り前までは大さわざされた問題でした。當時の直観は今の心理學用語でいへば知覺によることであつたらしい。今幼稚園教育内に問題をせばめまして、フレーベルは直観を尊重しましたが、彼は知覺でなく感覺の方へ特に重きを置きました、何故かといひますと、彼は全體、心理學派であります。ペスタロッツチも教育史上から見れば心理學派ではありますが、それより、以上に、經驗派であります。知覺を心理學的に分解すれば最も簡單な心理經驗として感覺となります。そこで「直観の基礎として幼兒教育では感覺の練習をすべきもの」と云ふのであります。モンテツソリーに於ても亦、同じ意味から出ることが分ります。知覺と感覺の兩者には大きな境があります。日常の具體經驗上から見ると知覺が最も簡單であります。それ以上に分解されたものは多くは抽象であります。感覺練習のためにいろいろ器具が發明されましたが、事實の結果は知覺練習です。モンテツソリーのは學問的であるためにそれだけ抽象的です。即ちモンテツソリー、フレーベルは概念への對立としては正當の地位にあるけれど、抽象になつて居るのです。幼兒の教育は具體の中に行はなければなりません。それでフレーベルの感覺練習を私は餘り讚美しないわけであります。

こゝに又教育一般の問題を考へ合はせます。教育に於て大切なことは子供らをして活動させることで

あるとて、活動による教育、アルバイトによる教育が問題になつて參りました。これは現在唱へられて居る問題でありますが、幼稚園では別に珍らしい問題ではありません。フレーベルの説いた恩物、作業みな一種の製作活動でありますから。それで幼稚園は教育理論上幅を利かしたのであります。次に、この活動に藝術の要素が強くなりました。其の理由はありますが略します。現代になつては最著しく増した要素であります。前には活動が主であつたのが、今では氣分・情緒が勝つた風であります。併し國民教育の場合では、如何に藝術要素を加へても本質上實際的性質が多からざるを得ないのであります。幼児は元來が想像性に偏して居りますので此の方面が一ぱいに擴がり易いのです。道具を使つて活動するよりはリズムによつて湧るといふ風になります。故に一方から見ると、一層實物經驗から遠ざかつてゆきました。こゝに或は極端に走つた弊もあらはれます。觀察がこの度新たに力說せられた理由の一つは、この邊にもあるものと思へます。つまり實物教育へと、も一度立ち返らせたのです。

(二)次に考へられるのは、我が國の教育意見中に、日本人は理科教育を主にしなければならぬ。科學文化の現代に於ては概念や言葉の勝れた日本人は時代に適應してゆくに困ると、これは強い思潮であります。子供に對して何時からこれを行ふかは問題でありますが、理科教授でなく理科的教養といふ意味では幼児に於てもなし得るのであります。

(三)理由としても一つ考へられるのは、從來の教育は學校の中に閉ぢ込められて、活きた實際活動に

觸れすぎました。もつと學校は社會事實に入れるべきだといふのです。従つて人事といふ方の意味での觀察の立場になります。この傾向はアメリカに於いて特に著しいのであります。

これで觀察の根本態度がきまります。即ち觀察の本體は實物に觸れるといふ所にあるのであります。

## 二 幼兒と觀察

(一) 先づ幼稚園の教育原理としての自發活動を穿鑿して見ませう。活動は運動活動の意味にもとれますが、廣い意味では精神活動も大なる自發活動で、物に對して持つ興味も或は好奇心もそれでありまゝ。自發とは一面にはそれ自身・純粹・純眞といふことであります。それ自身として興味を持つのは自發活動です。ところで、幼兒は何から何まで興味を持つ、廣さに於てのみならず、又強烈に、凡べてのものに詠歎的態度を持ちます。新鮮なる驚き即ち潑刺性は幼兒の興味の特質であります。これが幼兒の著しい心理狀態でありまして、つまり言ひかへれば、觀察をこの廣さと強さとで爲さうとして居るのです。幼兒の自發活動は一面發表的でもありますが、又この印象的方面も強烈なる要求として持つて居るのです。保育項目中に觀察があらうとなからうと幼兒は觀察しようとして居るのです。

(二) 次に、我々の觀察態度は對象から離れる。即ち客觀といふことが、必要條件となりますが幼兒は左うでない。對象と交渉してしまふ。實物を直觀するのは大人のことでありますが、幼兒では經驗の中

に實物を入れてくる。詰り、經驗觀察であります。若し吾々にこの點が徹底すれば、幼兒の觀察が理科教授とは當然違つてきます。

### 三 觀察の實際的計劃

(一)幼兒は前に申した意味で、強い觀察の要求を持ち、そして絶間なくそれを爲して居るのでありますから、教育計劃としての第一義は如何にしてその要求を満すかにあるのです。處が今日の幼稚園教育は觀察の機會を少くして居ります、少ないのみならず、幼稚園といふ處はそれでよいとされて居たりします。遡つて考へますのにフレーベル自身の幼稚園は觀察をさせました。少くも觀察をとめるやうな分らずやではありませんでした。多くの時間を野に、山に過させて居ります。「母の遊戲」の材料は人事の生活と自然とであります。けれども全體彼は當時のロマンティズムの影響と彼自身の性質から象徴主義でありましたから、物そのものの直接與へるものを主にせず、その裏に潜むものをねらひました。それ等がもとで、幼稚園が實物そのことを軽く扱ふ風が出たのかも知れません。それから今一つは、幼稚園は子供から何かを創作させる所だといふので、その方を本體とした爲に、取り入れさせる方の努力が少くても咎められなかつたといふ様な理由も考へられます。要するに幼稚園が不精だつたからです。不精の因つて來たる所は以上の様に説明はつきますが、兎に角く、此方の努力が足りなかつたのです。

何しろ今日の幼稚園は與へることが餘り尠なすぎます。それで計畫の第一としては實物に接する幼兒の自由を許すことが觀察に關する最も廣い實際計畫であります。

(二)保育者の用意。極く實際のことに入りますと、幼兒に何を觀察させるかに先立ち、私達自身が四圍の自然人事に無智であつてはなりません。その爲には自分の幼稚園を中心に附近を調査して幼稚園近傍圖を作る必要があると思ひます。それからその地圖と相待つ用意として、なほ季節自然曆と幼稚園を中心にした社會年中行事表がいます。これ等は先生自身のためなのですから出来るだけ綿密に作り度いものです。

(三)方法の工夫。一番容易に行はれ得るものは散歩であります。子供に自然を持つて來ることが出来なければ子供を自然に連れて行く。このための形式が散歩です。散歩の仕方に種類があります。散歩のための散歩即ち計畫的散歩と用務のための散歩、用務のための散歩は餘りされないやうですがこれもいいものです。先生が金魚でも買ひにゆく時、いつしよに連れて行くといふ風なこともやればいゝのです。何れの場合にしても散歩の連出方は研究を要します全園打ち連れるとか、區分的にするにしても如何なる區分が適當かといふことも大事な問題です。都會では安全のために十分考慮を要します。次には、觀察對象を幼稚園内に施設することであります。つまり、花壇とか、動物飼畜とかです。上等な特別のものを揃へる要はありません。

#### 四 觀察の實際上の問題

觀察は幼兒の生活の中にある。その生活の中にある觀察を教育的にするのですから、つまり機會捕捉の原理によるのが第一であります。機會捕捉となりますと自由遊びの中にも觀察の目的を達し得ます。ところで機會捕捉は吾々が子供と同一興味を持つてゐなければ出来ません。でなければ子供の觀察の内容を捕へられません。しかし、此の方のことは暫く別として、先づ知る必要のあるのは、幼兒自身の觀察の態度です。即ち幼兒が觀察する時に何んな態度をとるか。幼兒の觀察の特色を考へる必要があります。

(一)狭い意味の觀察。いわゆる當り前の觀察でありまして我々の場合では最も主要部分であります。この直接的態度を取らなければ我々には觀察といはれない位です。又年長の兒童には是非斯様な嚴密な態度を養ふことが必要であります。幼兒では、その嚴密な形はとりませんが、矢張りこの意味の觀察をしまゝ。ちつとして物を觀て居るのです。たゞ幼稚園ではなかく落ち付けないので物に即した靜かな生活は妨げられて居るかも知れません。私は、いつも之れを甚だ遺憾に思つて居ます。もし、幼稚園の幼兒數が少なく、靜かに落ちついて、獨りの生活が適宜營まれるのであつたら、幼兒もなかく靜かに物を見ることゝ思ふのです。

(二)表現。心理學的にいふと直接知覺によつて出來た心像を、も一度再生知覺となしこれを外に出したものが表現でありますが、幼兒の場合では知覺したものを、心像として仕舞つて置いて、後に再生させるのでなくして、觀ると直ぐ表現の形になはすことが多いのです。靜かに觀てゐる時が無い程に、直ぐ表現に移つてゐることの多いものであります。つまり觀ながら表はすので、これが分れて畫くことと作ることと行ふこととの三つになります。我々だつて只ちつと觀てゐては分らない、やつて見て分るといふことが常にあります。幼兒には殊にそれが多いので、即ち、幼兒は表現によつて觀察することの多いものと言へるのです。幼稚園の諸作業が、單に作業としての意義をもつ許りでなく、一種の觀察であることの多いものです。

此の意味からは、觀察といふ項目が入つたために、新たな生活様式を加へることのみがその要旨でなく、從來の生活形式による表現の効果を強めてゆくことも大切なのです。

假令ば私の此頃力をいれてゐる厚紙細工などにしても、創作ばかりでなく、實物を見て作るといふ様のこと、大きな意味があるものなのです。從來の小さい紙では郵便局やステーションなんか作れやしません。ボール紙ならば大きいからかなり實物的に作れます。

(三)交渉。幼兒は、前にも申した通り、ちつと觀てゐないですぐ交渉の態度に入つてゆきます。取扱ふ、いぢくるといふのも一種の交渉であります。更に多くの場合一種の感情性を伴ふものであります。



見て居るもの、取扱つてゐるものが、かわいとかにくいかいふ風になつて來ます。この心持ばかりが主になれば觀察とは違つたことになりませんが、同時に附いて行はれれば幼兒の觀察の特色といひ得るのであります。そこで、觀察といふことは、主なる本質は知的のことですが、幼兒の觀察が必ず知的の態度のみに分化することが必要でせうか。たとへ分化の必要があるとしても、分化の能力が問題であります。情意の加つた觀察で差し支えないものではないでせうか。たとへ情意許りでなければ良いのです。情の是認の中で、觀察の方面を特に浮き出させるといふ仕向け方が許されるべきであります。子供の全生活で觀察させればよいのです。愛は感情を結びつけるのみならず、觀察を周到にするものです。

## 五 幼兒の觀察教育

幼稚園で實物經驗を豊富にするために、特に觀察のための時間を設けることはしてもよいが、小學校の上級生の程度にはとても要求されません。文部省の森岡督學官の幼稚園の觀察についてのお話の中にも、小學校の理科式になつては困ると云ふ意味のことがあります。それから實際問題として純粹觀察の程度をどの程度にするかといふ問ひが屢々出ますがこれを理論根據に立てゝいふことは困難です。

限度はつきませんが、つまり、その場合に幼兒の興味に向ふ度合までといふよりは仕方がありません。何だかはつきりしない様のことではありますが、元來知識として覺えさせるのではないのですから、相手

の興味によつて或る時は多少深くも、或る時は浅くもよいので、場合次第による外ありません。あつても言葉であらはすことは出来ません。それよりも、幼児の觀察教育の標的に基いて、方針をその方に方向と向けてゆけばいいのです。その幾つかを擧げて見ると、

(一)何れだけ正確に、細かに觀察させるかよりも、觀察性の促進、觀察好きにすること、この點には骨折らなければなりません。今日の我々の幼稚園では自然物に觸れる機會は尠ない。機會がよしあるにはあつてもあわたし過ぎる。この中で此の目的を達するには骨折りが要ります。御褒美欲しさにさせたのでは却つて觀察興味そのものは減るし、利恰になるためにといふ様に仕向けては矢張り、觀察興味そのものは減ります、斯様な似て否なるものは謹まなければなりません。どうしても觀察興味の繰り返しによつて進ませてゆくべきです。極端にいへば今日の幼稚園は餘りに實物を見せないために、幼兒本來の觀察興味を消失させて居ないでせうか。

(二)次には、觀察性を一面的から多面的に擴張させることであります。構はないでよくと或る子供の畫帖はお嬢さまばかりに或る子供のは汽車ばかりに終ることがあります。之れを擴げてゆかなければならないのです。

(三)表面的觀察から探究的觀察にすゝめる。これは促進と同じことのやうにも見えますが、これは斯んなに見えるけれども此方にまわると斯んなだつたといふことを經驗させるのです。一種の研究興味で

す。

(四) 程度の漠然なものから精密なものに向けてゆく。之れは一番當り前の目的であります。只先述の通りどの程度に精密にといふことは言ひ得ないことで、極く大まかに云へば、先生と一緒に花を見てゐる。子供は倦きて去つてしまふ。暫くして歸つて見るとまだ先生は見入つていらつしやる。おや／＼そんなに綿密に見られるものかといふことが子供に感じられてゆくといつたことです。

(五) 特に社會的の觀察に就ては、外部から更にその意味に入つてゆくべきものと思ひます。これも深さは無限ですから程度は云ひ得ませんが、幼兒の場合では少しも意味にふれないことがあるから、それを少しづゝ意味に向けて行かなければなりません。

## 六 保育者への希望

これで大體觀察に關して問題を盡したかと思ひます。たゞ仕舞まで残る問題は觀察を觀察として扱ふ具體案でありませう。皆さんのお考へも伺ひ度し又案も立てゝ戴き度いですが、その立案の根據をきめることは中々六かしいのです。まあ適當にやつて見るといふより仕様がありません。それで皆さんへの私の希望としては、

(一) 貴女の幼稚園では何れだけの實物が提供出来るかの調査

(二) 幼児の日常接觸する經驗圈内の實物についての研究。

(三) 觀察のためにどういふ時間を作るか。

(四) それらの實物に對して、幼児が何んな點に興味を持つかについての綿密な研究。こういふことが希望したいのです。折角く此の保育項目を設けられた機會に、一應細心な研究をして頂きたいのです。慣れて仕舞ふと、分らないなりに分つたことの様になつて仕舞ひますから、今の中に、よく研究をして頂きたいのです。(きく子)

山茶花を雀のこばす日和かな 子規

紙あます日記も春の名残かな 子規

遣羽のちらく雪となりにけり 子規